

# 1

Rd.

APR 2013

平成25年4月30日発行

# RACING PRESS

*apan*

**SUPER GT ROUND 1  
OKAYAMA**



Super GT  
Series 2013

GT

Round 1  
OKAYAMA

4/6-7



Text  
島村元子

Editor  
吉川納恵

Photo  
鉄谷康博  
加藤智充  
中村佳史

Cover Photo  
中村佳史

Special Thanks  
近江 勲





# 攻防戦の開幕戦はNo.100 RAYBRIG HSV-010 が制す!

いよいよ2013年シリーズの開幕を迎えたSUPER GT。ショートコース、タイトなレイアウトを持つ岡山国際サーキットを舞台に、手に汗握るハラハラドキドキのレースが展開された。



GT500





予選日は暴風雨に見舞われる荒れた天気。降りしきる雨の中、予選もままならず、GT500では2度のセッションを1度に切り上げ、予選順位を確定する状態だった。その中で、今季初ポールポジションを獲得したのは、No.23 MOTUL AUTECH GT-R(柳田真孝/R・ウインタレリ組)。去年のシリーズチャンピオンが底力を見せて、存在感をアピールした。一方、予選の路面コンディションが不安定なウェットだったことから、タイヤメーカーで明暗が分かれた。23号車は以前から定評あるミシュランタイヤを装着し、文句ナシのトップタイムをマーク。2位に続いたのは、雨を得意とするダンロップのNo.32 Epson HSV-010。3番手にはアドバンタイヤのNo.24 D'station ADVAN GT-Rが続き、ブリヂストン勢は、No.17 KEIHIN HSV-010が最上位となる5番手に甘んじた。



3rd



**AUTOBACS** **AUTOBACS** **AUTOBACS**

迎えた決勝。朝はセミウェットの状態だったが、冷たい強風を前に、レースはドライコンディションでスタートが切られた。予選と打って変わり、低い路面温度にダンロップやアドバンタイヤを装着する車輦は悪戦苦闘。逆に、ブリヂストン勢、その中でもホンダ勢が constants に速いラップタイムを刻み、序盤から上位で周回を重ねた。終盤、タイヤのタレが出始めたトップの23号車に対し、後方からホンダ同士でつば迫り合いを続けていた中から、No100 RAYBRIG HSV-010 (伊沢拓也/小暮卓史組)とNo17 KEIHIN HSV-010 (塚越広大/金石年弘組)が浮上。2台は激しいバトルをしながら、23号車にも襲いかかるというアグレッシブなパフォーマンスを披露。GT300に行く手を遮られた23号車を揃って逆転し、HSV-010の2台が優勝争いを繰り広げることに。結果、チームを移籍した小暮が操る100号車が17号車に競り勝ち、トップチェッカー！チームに2006年以来となる勝利をプレゼントした。2位には17号車、3位には23号車が续いている。



#### GT500 決勝結果

優勝	No100	RAYBRIG HSV-010	伊沢拓也 / 小暮卓史
2位	No17	KEIHIN HSV-010	塚越広大 / 金石年弘
3位	No23	MOTUL AUTECH GT-R	柳田真孝 / ロニー・クンタレリ



# No.11 GAINER DIXCEL SLS が圧巻の勝利!

今シーズンもFIA GT車輛が多く参戦することとなったGT300クラス。予選ではJAF GTとして奮闘するNo.61 SUBARU BRZ R&D SPORT (山野哲也/佐々木孝太組) がウェットコンディションを味方にポールポジションを獲得したが、決勝では力を発揮するチャンスはなかった。これに対し、予選2位スタートのNo.3 S Road NDDP GT-R (星野一樹/佐々木大樹組) がダントツの速さを見せていたが、レース後半に他車と接触、リタイヤを喫した。



GT300





そんな中、予選3番手だったNo.11 GAINER DIXCEL SLS(平中克幸/B・ビルドハイム組)が安定したレース運びを見せて、前半からトップに立つと、そこに予選6番手だったNo.4 GSR 初音ミク BMW(谷口信輝/片岡龍也組)がじわりじわりと浮上。試合巧者らしい戦いでトップに喰らいつく。しかし、11号車の速さに追い付くまでには至らず、このままゴール。11号車は車輛こそ違えど、去年に続き、開幕戦を制することとなった。4号車の2位に続いて3位でフィニッシュしたのは、今年から新しいコンビを組んだNo.87 ラ・セーヌ ランボルギーニ GT3(山内英輝/吉本大樹組)が続いた。



### GT300 決勝結果

- |    |       |                   |                  |
|----|-------|-------------------|------------------|
| 優勝 | No.11 | GAINER DIXCEL SLS | 平中克幸 / ビヨ・ビルドハイム |
| 2位 | No.4  | 初音ミク BMW          | 谷口信輝 / 片岡龍也      |
| 3位 | No.87 | ラ・セーヌ ランボルギーニ GT3 | 山内英輝 / 吉本大樹      |



THE WINNER

CLOSE-UP

No.100 RAYBRIG HSV-010

Text by Motoko Shimamura

Photo: Yasuhiro Tetsutani

## 新たなドライバー編成を組んだ今シーズン、 レイブリックカラーのHSVが久々の美酒に酔う

2013年シリーズ開幕戦の予選日。今季から全戦でノックアウト形式の予選が採用され、ドライバーが各々ホットなタイムアタックを披露するスタイルになった。チームメイトは同時に最大のライバル…。その緊迫した空気が漂っていたのが、100号車のRAYBRIG HSV-010だった。

今季、チームは残留した伊沢拓也のパートナーとして小暮卓史を新たに迎え入れた。アグレッシブな走りのスタイルは韋駄天と言われ、レースファンを魅了する小暮。SUPER GTでは優勝はモチロン、2010年にはシリーズタイトルも手にしている。一方、100号車としては、昨季もあと一步のところまで勝利を掴み損ねるなど、長らく優勝から遠ざかっていた。当然、小暮の加入でチームは優勝実現を一層意識する。それに併せ、ドライバーはそれぞれ秘めた闘士を胸に、シーズン開幕戦を迎えたに違いない。

迎えた予選。レインコンディションの中、Q1に出走したのはチーム新参者の小暮。Q2進出可能な上位8台中6番手のタイムをマーク、伊沢にバトンをつなぐ。だが、Q2は激しい暴風雨に見舞われ、セッションが延期に。最終的には天候の回復が難しいとされ、アタックが見送られて、100号車はQ1の成績、6位をもって決勝に挑むこととなった。

ドライコンディションで行われた決勝。スタートドライバーを務めた伊沢が着実にポジションアップを果たし、後半の小暮へとスイッチ。終盤は、HSV同士で激しいバトルを演じ、詰めかけた観客を大いに沸かした。ギリギリの攻防戦を最後の最後まで繰り広げた末、トップを奪った小暮がそのままチェッカーを受け、優勝！ 待ちわびた勝利はチームにとって2006年第7戦もてぎ以来のものとなった。



*Special  
Eye*

